

《新世界》から発信されたドヴォル ジャークの手紙と当時のアメリカ

その

27

半場 久也



(カットも筆者)

◎ヤン・ヨゼフ・コ
ヴァルジーク宛て

(原注・一八五〇〜
一九三九、アイオワ

州スピルヴィルのチェコ語及び英語学
校の教師。自分の息子の仲介で、ドヴ

オルジャークと知り合う)

ニューヨーク、一八九四年五月十八日
『親愛なる友よ！

既に明日我々はヨーロッパへ出発します。
それで私はあなたに御機嫌よろしくと言
いたいのです！ さようなら！

コヴァルジークは今の住まいにとどま
つて、あなたもご存知の通り、夏にはす
ることにありつくでしょう。彼はザイド
ルのところで夏の間、職を得ました。け
れども私の思うには、ここは貧しい人々
にとつて、我々を抜きにしては厳しいも
のになるでしょう。しかし、どうやっ
たらよいのでしょうか。この際、仕方ない
ことです。

我々が故郷へ帰ることがどんなに嬉し
いことか、あなたもはっきりと分かって
おられるでしょう。特に我々のように長
い間、故郷を失ったと思う人間にとつて、
また、そうしたことに慣れていない人間
にとつて！

しかし私には大事な父が元気な状態で

会えるという大きな楽しみが失われたの
です。というのは、彼は三月二十九日に
八十歳で亡くなつてしまつたのです。神
よ彼に永遠なる喜びを！

ヴィソカーも楽しいけれど、我々が気
に入つたスピルヴィルも再び訪れたいと
思つています。我々は神の存在を望み
我々が再会することを望んでいます。何
か一言でもプシーブラムの近郊のヴィソ
カーの方へ手紙を書いてください。そし
たらどんなに嬉しいことでしょう。

スピルヴィルの神父ビーリーさんにど
うかよろしくお伝え下さい。

おじいちゃん、おばあちゃん、ビーリ
ーおじいさんの他、皆さんのことを我々
は思い出しているのです！

皆さんお元気で。神様が守ってくれて
います。では再会するまで！ あなたと
あなたの愛する人々全員にキスを！

コメント「ドヴォルジャークはいよいよ、この夏休みを利用して故郷で過す

ことになった。この前の手紙で、五月十九日にニューヨークを離れるとあったので、この手紙はその前日に書かれたものである。自分の秘書にしていたコヴァルジーク青年がニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団へ、恐らくドヴォルジャークの紹介で入団出来たのである。そのことを彼の父親に知らせる必要があったのである。因みにこの男の名前も父親と同じらしい。《ヤン・ヨゼフ》といふ。

◎フリッツ・ジムロック宛て（原文ドイツ語）

ヴィンカー 一八九四年八月二十五日
『大事なジムロック様！』

あなたが私に書いてくれた報酬に対して、私は作品を渡すわけには参りません。私がニューヨークから出した手紙では、ソナチネと歌曲十曲とピアノのための組曲、それに《テ・デウム》はあなたに送っていません（これは二千マルクの積もりでいます）。ですから

八千マルクは、これら三曲の代金として受け取りました。私はそう解釈しているのです。歌曲集とソナチネと組曲で八千マルクを要求します。どんなことがあってもお金を受け取る訳にはゆきません。要求に基づいて返送します。これらの譲渡に承諾のサインを致しませんので、差当たり印刷を中止してください。

価格交渉強気の駆け引き

この件は恐らくあなたの甥が「報酬」という言葉で始めた間違いです。何故ならば、三千マルクということに関して私の手紙にも、またニューヨーク宛てのあなたの手紙にも話題になっていません。

ニューヨークからの私の手紙では四曲に対して、はつきりと一万マルクを要求しました。ですから、これら三曲を三千マルクで渡すわけには行きません。

◎フリッツ・ジムロック宛て

プラーハ 一八九四年九月十九日

『親しきジムロック様！』

あなたが一八九四年九月九日に出された最後の手紙に私の作品、ヴァイオリンとピアノのためのソナチネと十曲の《聖書の歌》とピアノのための組曲に関する報酬問題の食い違いを是正したいという話には満足しています。もしもこれら三曲に（私の思い違いであっても）跡から三千マルクを支払ってくださるならば（《テ・デウム》入っていません）、タイトルは多分（ユーモレスク）を四千マルクで提供出来るでしょう。ごきげんよう』

コメント「ここではベルリンの楽譜

出版社ジムロックとの商売上の駆け引きが行われている。ドヴォルジャークは自分の作品の評判がよいことで強気になって、相手を振り回している様子が見られる」

◇お断わり 半場久也先生の遺稿は、37回まであり、順次掲載します。